

公開情報資料

整理番号	2024.08-1	
研究課題名	R/BR-PV 膵癌に対する術前化学療法の実状と、生物学的悪性度に応じた集学的治療戦略の展望	
研究期間	2012年8月～未定	
研究目的	<p>【背景】Prep02/JSAP05 試験により、R/BR-PV 膵癌に対する NAC は標準治療となった。一方近年 CA19-9 高値など biological factor を有する症例は予後が悪いとされ、生物学的悪性度に応じ NAC に何をどの期間行うかを今後は明らかにする必要がある。当院では BR 膵癌に対し GnP 療法 4 コースを、R 膵癌に対し GS 療法 2 コースを NAC の基本治療方針としてきた。</p> <p>【目的】R/BR-PV 膵癌切除症例における NAC の早期再発抑制/予後改善効果を検証し、現行の NAC では不十分であった群に対する至適術前治療戦略について検討する。</p>	
研究方法	研究対象範囲	’12.08～’24.04 に当院で施行した R/BR-PV 膵癌 117 例
	利用する情報等	臨床病理学的因子など
	利用方法	後方視的に解析
	他機関への提供	なし
研究責任者	杭瀬崇	
問合せ先	岡山赤十字病院ホームページの[お問い合わせ]ボタンからメールにてお問い合わせください。	

R/BR-PV 膵癌に対する術前化学療法の実状と、生物学的悪性度に応じた集学的治療戦略の展望

Efficacy of NAC for R/BR-PV PDAC and Future prospects of personalized NAC Strategy based on biological malignancy

岡山赤十字病院 消化器外科

杭瀬崇、山野寿久、三谷嘉史、島原美実、延永裕太、赤井正明、熊野健二郎、丸山昌伸、松村年久、高木章司、池田英二

【背景】Prep02/JSAP05 試験により、R/BR-PV 膵癌に対する NAC は標準治療となった。一方近年 CA19-9 高値など biological factor を有する症例は予後が悪いとされ、生物学的悪性度に応じ NAC に何をどの期間行うかを今後は明らかにする必要がある。当院では BR 膵癌に対し GnP 療法 4 コースを、R 膵癌に対し GS 療法 2 コースを NAC の基本治療方針としてきた。

【目的】R/BR-PV 膵癌切除症例における NAC の早期再発抑制/予後改善効果を検証し、現行の NAC では不十分であった群に対する至適術前治療戦略について検討する。

【対象と方法】'12.08～'24.04 に当院で施行した R/BR-PV 膵癌 117 例を対象とし① Upfront 症例と NAC 症例の臨床病理学的因子及び OS/RFS を比較検討した。②NAC 症例のうち術後 6 か月以内に再発した症例を抽出し、影響を与えた臨床病理学的因子について検証した。以下、連続変数を中央値(範囲)、リスクをオッズ比で示し、R 膵癌は初診時 CA19-9 < 500:Pure-R, CA19-9 ≥ 500:B-BR と定義した。

【結果】年齢 72.5 歳(46-86)、切除可能性分類 BR-PV/R:13/104、観察期間 21 M(2-117)、手術関連死亡 0。NAC/upfront:55/62、補助化学療法は 104 例(88.1%)で行い、Median OS/RFS:47M/20M であった。多変量解析では Upfront surgery (OR10.100)と pN+(OR5.720)が独立した危険因子だった。①患者背景に有意差なし。OS(1/3/5 years)は NAC 群:93.6/73.7/73.7% vs UpS 群:83.8/49.9/27.3%(p=0.00673)、RFS(1/2/3 years)は NAC 群:82.6/66.1/58.1% vs UpS 群:60.9/32.0/28.3%(p=0.00232)であった。②NAC 群 55 例(Pure-R/B-BR/BR-PV:31/11/13)のうち早期再発症例は 7 例で、生物学的悪性度別の再発頻度は Pur-R:9.6%, B-BR:23.0%, BR:9.0%と B-BR 膵癌の早期再発率が高かった。また 7 例中 5 例(71.4%)で術直前 CA19-9 値が正常化せず(無再発症例:40.5%)、これらの症例は NAC が不十分な可能性が示唆された。

【結語】B-BR 膵癌や術前に CA19-9 値が正常化しない症例は BR 膵癌に準じた NAC により更なる治療効果が期待された。